

平成 29 年度 自 己 評 価 表

愛媛県立宇和島東高等学校 (全日制)  
学校番号 4 3

教育方針	人格の完成を目指して、敬愛・自律・進取の精神を培い、21世紀をたくましく生きぬく心身ともに健康な生徒の育成に努めます。	重点目標	伝統を礎に、新たな宇東創造へ確かな前進
------	---	------	---------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
自 己 実 現	わかる授業の実践	授業研修や教科の連携を推進し、アクティブ・ラーニングなど指導方法を工夫・改善して授業の質の向上を図り、生徒の授業満足度 100%を達成する。	B	授業アンケートの結果、授業に対する生徒の評価は、ほとんどの項目で4段階中3以上が90%以上であり、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善の成果が出ていると考えられる。	授業アンケートの結果、生徒自身の授業への取組は全ての項目で4段階中3以上が80%以上であった。より生徒が主体的に活動して学力を高めることができるよう指導法の研究に今後とも努めたい。
		研修・研究授業に5回以上参加することを通して、自己研修の充実を図る。研究授業の計画的な実施及び、授業研究会の協議方法やその内容の深化により、授業力の向上を図り、授業改善に努める。	B	2学期末までに、研修・研究授業に5回以上参加が見られ、学校訪問研修及び、県立学校基礎研修等にはのべ約60名の参加者があった。また、校内研究授業を計画通り12回実施し、目標数値を達成した。他教科の参観者も多く、研究授業参観シートの提出や授業の気づきを付せんに記入することで、授業研究会の内容も充実したものになった。	教科によっては、校内研究授業後の授業研究会への参加者が少ない場合があるので、他教科からの参加を促し、研究協議の内容が充実するよう努めたい。
	学習習慣の確立	教科間で連携し設定した適量の課題に取り組みせるなど、一日3時間以上の家庭学習習慣の確立を図り、継続的な学びの姿勢を育成する。	C	学習時間調査を年間3回(3年生は2回)実施した。3年生の2回目の調査では、平均学習時間は3時間9分であった。1・2年生は、年間通じて3時間を越えることはできなかった。	家庭学習時間の増加には、生徒の学習意識の向上が不可欠である。進路意識を高めることが、学習意識の向上につながり、さらに学習習慣の確立に結びつくように指導していきたい。
	理数教育・産業教育の充実	課題研究等の体験的な学びを通して、 <u>学習意欲の向上とともに、大学や研究機関等との連携を図りながら問題解決能力を伸長させ、生徒の満足度70%以上を達成する。</u>	B	生徒アンケート1月実施の結果を6月実施の結果と比較すると、生徒の満足度について、「RSⅠ」では60.0%から58.6%に降下し、「RSⅡ」では60.4%から62.3%に上昇した。	課題研究の質を向上させ、生徒の問題解決能力や学習意欲の伸長を実感させる取組を展開する。そのために課題研究の指導の在り方を工夫し、その取組の充実を図る。
		生徒の自発的・主体的な活動を推進し、各種イベント・コンテスト等に10回以上参加し、コンテスト等への出品においても50作品以上を達成する。	A	科学系コンテスト等への参加数は101、受賞数は25である。昨年度と同程度の成果を収めることができた。	積極的に科学系コンテスト等へ参加し、理数教育の取組の成果を生徒に実感させることを継続して行っていく。
		キャリア教育全体計画に基づいたキャリア指導を実践し、資格取得を奨励して全商検定1級3種目以上合格者70%以上を達成する。	B	インターンシップをはじめ、ビジネスマナー講習会の実施など、各学年において幅広く実践できた。また、全商検定1級3種目以上合格者は、60%であった。	系統的にキャリア教育が実践できるよう講座内容及び指導の充実を図りたい。また、全商協会主催以外の検定資格にも幅広く対応した指導を行いたい。
	希望進路実現	望ましい職業観を育成するとともに、生徒の能力・適性・希望を把握した就職指導を実践し、早期に採用内定率100%(第1希望合格率95%以上)を達成する。	A	就職希望者に対する情報の提供や個に応じた指導を強化し、内定率100%を達成することができた。公務員希望者においても現役合格者が多数出た。	雇用のミスマッチが生じないように生徒だけでなく、担任や保護者とも情報の共有ができるよう工夫していきたい。
		進学データの有効活用など教員の進学指導力の向上を図り、国公立大学及び難関私立大学合格者数110名以上を達成する。	A	進学指導委員会などを通じて、過年度の受験実績などを参考にしながら指導できた。国公立大の一般入試対策補習や小論文・面接個別指導などにより、数値目標達成の見込みである。	生徒の希望を尊重しながら、最適な受験先を提示するために、各学校の特徴などの情報共有や教師間の連携などを深めていきたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
心身健康で豊かな心	基本的生活習慣の定着	<u>全体指導及び個別指導を通して、気持ちの良い挨拶・端正な身だしなみの実践100%を達成する。また、交通マナーやルールを遵守する生徒を育成し、交通事故0を達成する。</u>	B	気持ちの良い挨拶・端正な身だしなみの実践は、アンケートの結果、どちらも70%から80%の達成であった。目標の100%達成はできなかった。交通事故は1年間で4件発生したが、いずれも重大なものではなく、生徒のルール違反による事故は0件であった。	挨拶については、朝の登校指導をはじめ、普段の日常生活の中で教職員が率先して挨拶をする雰囲気作りに努めたい。身だしなみについても同様に、機会を捉えて、適切な声掛けや指導をしていく必要がある。
		生徒の健康・安全に留意し、長期欠席・不登校への早期対応に学校全体で取り組み、一か年皆勤率60%以上を達成する。	B	欠席・欠課等の多い生徒に対しては、担任・学年主任・教育相談課が連携し、面談や家庭訪問を積極的に行い、生徒達が抱えている問題の解決に努めた。3年のみ、一か年皆勤率60%を達成することができた。学年末までの皆勤率は1年56.6%、2年49.3%、3年68.8%である。	不登校傾向の生徒や配慮の必要な生徒が増加しているため、教職員が連携を図り、担任をサポートしていく体制が望まれる。問題の早期解決に向けて、個々に応じたきめ細やかな対応が継続して求められる。
	人権意識の高揚	「学校いじめ防止基本方針」に則ったいじめ、人権侵害をなくす取組を10回以上実践し、生徒の自己愛・他人愛の精神を育成する。	B	人権・同和教育ホームルーム活動(4回)の実施、人権だより「ひだまり」の発行(5回)、人権委員の識字学級への参加(2回)、人権メッセージの発行等によって、生徒の自己愛・他人愛の滋養に努めた。	ホールーム活動の指導資料の充実を図る等、生徒が主体的に課題に取り組める授業実践のための情報提供を積極的に行いたい。人権委員以外の生徒の校外行事への参加を促す取組を実施したい。
	家庭と連携した個別指導	個人面談・保護者懇談を年間5回以上実施し、生徒及び保護者との相互理解を深め、充実した個別指導を実践する。	A	全クラスで家庭訪問が完了し、個人面談は保護者懇談を含め全クラスで年間5回以上実施することができた。生徒理解に努め家庭との連携を図ることで個に応じた個別指導を実践できた。	年間を通じて面談を実施する期間や時間、面談場所を設定することにより更に充実した指導環境を構築していく必要がある。
	読書の勧め	「朝の読書」やクラス単位での読書会を実施することで、読書指導の充実を図る。より良い読書習慣の確立に向けて、年間読書冊数一人10冊以上を達成する。	B	図書に関するアンケート結果は、1・2年生の平均読書冊数7.9冊(3/13現在)。(昨年7.5冊)「朝の読書」については、90%の生徒が充実していると回答しており、担任副担任・学年主任の先生方の地道な読書指導の結果だと思われる。	全校一斉に「朝の読書」が開始できるよう、自主的に読書をする態勢作りに努めたい。また、クラス単位での図書館利用の機会を増やすために、集団読書用の書籍の活用方法を検討したい。
	ボランティア活動や地域イベントへの参加	一人年間1回以上のボランティア活動や地域イベントに積極的に参加することを通して、地域の活性化に貢献する態度を育成する。	B	1学期には全校生徒で校外の奉仕作業に取り組み、1・2学期末には校内のトイレを清掃するトイレクリーンに百数十名が参加した。ボランティア部を中心に、のべ80人以上の生徒が約8つの行事関係にボランティアとして参加した。	部活動やいろいろな行事を通して地域との連携を深め小学校や中学校との交流を増やして、地域の活性化に貢献する態度を育成する。
魅力ある特別活動	生徒主体の学校行事	学校行事において生徒の主体性を軸に、協調性・独創性及び愛校心を育成し、生徒の学校行事満足度100%を達成する。	B	一学期から学校行事が集中する中、生徒達の取り組みはすばらしく協調性も養われている。皆と交わることを苦手としている生徒もその雰囲気の中に引き込まれ活動できている。満足度も94%程度と高かった。	生徒会主体の学校行事が多い中でも、その中にとけ込めない生徒もいる。その割合を少しでも減らすことができるような巻き込む工夫と環境作りを考えていきたい。
	部活動の活性化	指導法を研究し魅力ある部活動を目指す。また、部活動加入率を高め、心・技・体の調和の取れた生徒を育成する。	B	部員の確保という点では、年ごとに波はあるが、普通科の生徒が参加できる指導法や練習内容を研究し実践する必要も感じた。	推薦入試に頼るのではなく、普通科の生徒が参加できる部活動を目指し、指導法・指導時間等の研究を実践する。
	全国レベルの部の育成	愛媛国体を迎え、県の勢いに乗り競技力向上のための環境を整備し、12部以上が全国大会出場を達成する。	B	県総体では上位進出する部も少なく、特に団体での全国大会出場は厳しい現状である。文化部の全国大会出場は例年に近い状況であった。SSHの部の取組も成果を上げた。11部が全国に出場した。	運動部であれば団体種目は注目度も高く部員数も多い。これらのレベルアップを図ることで、学校に活力をもたらす勢いをつける事が必要である。

※評価は5段階 (A:十分成果があった B:かなり成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)